



議会図書室からのお知らせ

今月の新着図書
R7年11月（一般用）

『過疎ビジネス』

横山 勲【著】/集英社 (2025/7)



福島県のある町で、「企業版ふるさと納税」を財源に不可解な事業が始まろうとしていた…。著者の2年間にも及ぶ取材を元に構成した、「地方創生」の現実を突きつける1冊。

『地方女子たちの選択』

上野 千鶴子・山内 マリ子【著】/桂書房 (2025/7)



富山県で女性14人の語りを聞き取り、彼女たちは何を選び、何を選べなかったのかを探る。「富山県から出る」選択をした著者2人が、様々な選択が交錯する語りを踏まえた対談をし、「女性の視点」で地方を見つめ直す。

『男女賃金格差の経済学』

大湾 秀雄【著】/日経BP (2025/6)



男女の賃金の平均を単純に比較するだけでは、実態も改善度も分からない。日本企業の実情や男女の行動特性まで踏まえ、真の格差をいかに測り、改善するか、最新の経済学の実装の仕方を解く1冊。

『国家安全保障とインテリジェンス』

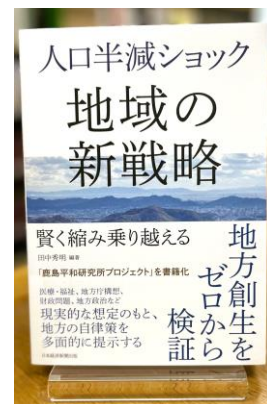
北村 滋【著】/中央公論新社 (2025/7)



いかにして日本は戦後最も厳しい安全保障環境に立ち向かうか？ 国家安全保障戦略や経済安全保障推進法を読み解き、ウクライナ戦争等を概観し、「インテリジェンスなくして戦えない現代戦」を徹底解説する。

『人口半減ショック 地域の新戦略 ～賢く縮み乗り越える』

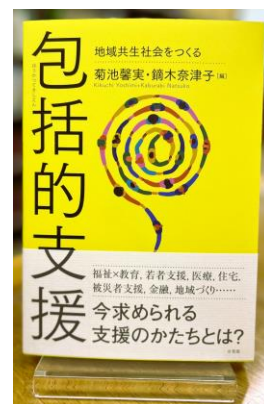
田中 秀明【編著】/日経BP (2025/6)



国と地方をめぐる財政問題、地方の政治的アカウンタビリティの改善といったマクロの視点と、医療・福祉等、行政サービスの安定提供といったミクロの視点の双方から、問題を真に解決する改革案を提示する。

『包括的支援 ～地域共生社会をつくる』

菊池 馨実・鏑木 奈津子【編】/有斐閣 (2025/8)



包括的支援は、対象とする課題が幅広い領域にわたり、福祉以外の金融や教育・住宅・医療・災害対策・地域づくり等との連携が欠かせない。各領域の第一人者が、包括的支援とその体制構築へ向け、課題と展望を明らかにする。

『自由（上・下巻）』

アンゲラ＝メルケル【著】長谷川 圭 他【訳】/KADOKAWA (2025/5)



著者は16年にわたりドイツ連邦共和国の首相として、世界の政治をリードしてきた。東独出身の彼女が、いかにして統一ドイツ初の女性首相になれたのか？ 対立が激化する時代における、彼女の政治活動を振り返る。

『若者恐怖症 ～職場のあらたな病理』

舟津 昌平【著】/小学館 (2025/8)



「飲み会離れ」「早期離職」「やりがい・成長」「ハラスメント」などのキーワードを手がかりに、職場で静かに進行する“若者恐怖症”の実態を明らかにする。すべての働く人に向けた、職場改善の処方箋！

☒ 本のタイトルには、出版社の本の紹介のリンクが貼ってあります。出版社での紹介がないものは貼っていません。

▶特別委員会シリーズ④「地域支援」に関する書籍



新着

『優良企業とゾンビ企業
～中小企業の分かれ道』

水野 由香里【著】/光文社 (2025/8)



日本企業の99.7%を占める中小企業。どうすれば生産性の高い中小企業は増えるのか？
500社以上を調査してきた経営学者が、存続が目的としたゾンビ企業を優良企業に変貌させる条件を分析！

新着

『「地方」は最強の武器になる
～逆境を力に変える経営術』

齋藤 憲嗣【著】/合同フォレスト (2025/7)



ヒト・モノ・カネも、情報もない「地方」だからこそ、できる経営がある。
島根県浜田市で「年商5億円企業」へと成長した逆転の秘訣とは？
逆境に勝つ者だけが、未来を手にとすると著者は語る。

『移動困窮社会にならないために
～新しいモビリティサービスへの大転換によるマイカーへの過度の依存からの脱却』

鎌田 実・宿利 正史【編著】/時事通信出版局 (2024/4)



高齢化が進む中、「過度のマイカー依存状態」から脱却しつつ、移動手段に困らない社会を構築するためには何が必要なのだろうか？
自由な移動を確保するために、「これからの日本のモビリティ」を考える1冊。

『あっぱれ！日本の新発明
～世界を変えるイノベーション』

ブルーバックス探検隊【著】/講談社 (2024/1)



世界的に奪われていく産業シェア、低迷する経済、深刻さを増す人材不足。
そんな逆風の中、奮闘する研究者たちの姿があった。
世界の「標準」を覆す、驚きの新発明の数々を紹介！



図書広報委員がおすすめする一冊

『大器晩成列伝 ～遅咲きの人生には共通点があった！』



著者：真山 知幸/ディスカヴァー・トゥエンティワン (2025年3月)



紹介者：今井 俊哉 委員
自由民主党・太田市選出・1期

「大器晩成」という言葉は多くの人になじみがあり、同時に関心を引くものであると思います。この本は人物伝ではありますが、序文で著者の意図が説明されており、「ミッドライフ・クライシス(中年期危機)」といわれる50歳前後で訪れる人生の転換期をどう乗り越えていくかがテーマです。

アインシュタインやカール・マルクスといった世界的な偉人のほか、渋沢栄一、赤塚不二夫、伊能忠敬、安藤百福など日本史上の巨人たち、そしてiPS細胞でノーベル賞を受賞された山中伸弥教授のような方でも、伸び悩んだり結果が出ない期間を長く経験してきたのかと思うと感慨深いものがあります。

文体も簡潔で読みやすいので、未来を担うお子様にもぜひ読んでほしい一冊です。

次号では、丹羽 あゆみ 委員におすすめしていただきます！



議会事務局政策広報課（議会図書室）